

道徳授業実施要領

平成 23 年 11 月 9 日
県立上郡高等学校
研究推進委・第 1 学年

1 目 的

法やきまりは自他の生活や権利を守るためにあることを理解することは社会人として必須条件である。また、秩序と規律ある社会を維持するための信頼関係は、自他の権利を尊重し、義務を遂行しなければ成り立たないことに本授業を通して気づかせることを目的とする。

2 日 時 平成 23 年 11 月 16 日（水）4 校時

3 場 所 各 H R 教 室

4 対象者 第 1 学年 全クラス

5 指 導 案

（1）主 題 きまりを守る （秩序と規律）

（2）資料名 「元さんと二通の手紙」

（出典 「中学生の道徳 自分をのばす」暁教育図書）

（3）主題設定の理由

①ねらいとする価値について

生徒にとっては行動や生活の規制であると意識されがちな社会のルールであるが、集団や社会の一員としての自覚を持ち遵守することによって、望ましい社会生活が営まれることを理解させたい。また、社会のシステムが機能していくためには個人の権利が保障され、義務が遂行されなければならない。その基盤となるのが社会のルールであることに気づかせ、実践しようとする態度を育てたい。

②生徒について

本学年の生徒は明るく人なつっこい。入学して半年あまり、高校生活にも慣れ体育大会では各クラスがまとまって積極的に行動できた。しかし、自分に甘い面が見られ、服装や規則に対しても「少しぐらいならいいだろう。」とか「自分一人ならかまわないだろう。」という安易な考えが見られる。集団生活の中において協調性に欠けるところが見られ、ルールによって守られ、集団生活や社会生活が営まれているという視点が弱い。そこで、自らが集団や社会を構成している一員であることの自覚と、ルールが集団・社会を支える重要な意味を持つことを理解させ、日常生活の自己を振り返り、規律を守ることににより成り立つ集団生活の大切さを感じさせたい。

③資料について

本資料は、模範的職員だった元さんが、幼い兄弟への同情心からきまりを破り、その結果会社を解雇されてしまうという話を通して、ねらいに迫るものである。元さんの行動は感情的には十分理解できるが、そのために多くの人に迷惑をかけてしまう。元さんへの二通の手紙について考えさせることで、きまりの意義やきまりと公私の関わり、自他の権利と義務について考えを深めることのできる資料である。特に生徒には、個人的な感情による行動は社会の秩序を乱し、他者の権利を奪うことにつながるについて考えさせたい。

(4) ねらい

秩序と規律のある社会を実現するために、社会の一員としてきまりの意義を理解し、規律を大切にして生活しようとする態度を育てる。

(5) 準備物 テキスト、名前カード、ワークシート

(6) 展 開

	学 習 活 動	主 な 発 問	指導の留意点
導入	・身近なルールや規則について考える。	○身のまわりのきまりやルールにはどんなものがあるか？ そのルールについてどう思うか？	
展開	・資料前半を読み、元さんの行為について考える。 ①姉弟の入園について悩んでいる元さんについて考える。 ②入園を許可した元さんの行為について是非を考える。 ・資料の後半を読み、きまりについて考える。 ①事務所で待つ元さんの気持ちを考える。 ②二通の手紙について考える。	○入園を断った佐々木さんの行動について思ったことは？ ○元さんが姉弟を入園させるかどうか悩んでいるのはどんな理由からか？ ○元さんが入園させたことについて、賛成か反対か立場を明らかにし、その理由もワークシートに記せ。 ○連絡を待っている元さんは何を考えていたと思うか？ ○母親からの手紙をもらった元さんはどんな気持ちだったか？ ○解雇通告を受け取った元さんはどんなことを考えさせられたと思うか？	・全員に、黒板の賛成反対のどちらかの立場に自分の名前を貼らせ、両方の立場の者に考えとその理由をそれぞれ発表させる。 ・規則は時として個人に対して非情な姿を見せるが、その規則に守られている現実も考えさせる。 ・解雇通告を前向きに受け止めることができた元さんの生き方を考えさせる。
まとめ	・教師の話を聞き、きまりや義務の遂行について考えをまとめる。	○今日の授業を振り返って感想をまとめよ。	